

令和5年第6回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

12月13日（水）午前10時～

- | | | | |
|---|------|----|-------|
| 1 | 栗山尚記 | 議員 | (30分) |
| 2 | 浅石昌敏 | 議員 | (30分) |
| 3 | 湯瀬誠喜 | 議員 | (45分) |
| 4 | 笹本真司 | 議員 | (60分) |
| 5 | 金澤大輔 | 議員 | (60分) |

12月14日（木）午前10時～

- | | | | |
|----|------|----|-------|
| 6 | 戸田芳孝 | 議員 | (60分) |
| 7 | 丸岡孝文 | 議員 | (30分) |
| 8 | 湯瀬弘充 | 議員 | (30分) |
| 9 | 黒澤一夫 | 議員 | (30分) |
| 10 | 児玉悦朗 | 議員 | (30分) |
| 11 | 館花一仁 | 議員 | (45分) |

□質問時間割当表

10:00	10:30	11:00	11:10	11:55	13:00	14:00	14:10	15:10
12月13日 (水)	栗山尚記 (30分)	浅石昌敏 (30分)	休憩 10分間	湯瀬誠喜 (45分)	休 憩	笹本真司 (60分)	休憩 10分間	金澤大輔 (60分)

10:00	11:00	11:10	11:40	12:10	13:00	13:30	14:00	14:10	14:55
12月14日 (木)	戸田芳孝 (60分)	休憩 10分間	丸岡孝文 (30分)	湯瀬弘充 (30分)	休憩	黒澤一夫 (30分)	児玉悦朗 (30分)	休憩 10分間	館花一仁 (45分)

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 教育環境について					
(1) 統合高校に対する市の支援体制について			① 鹿角地域唯一になってしまう統合高校の開校が残り数か月後と間近に迫っている。統合検討から計画・決定までの間、多くの市民から不安や期待の声が上がってきた。魅力ある専門科開設・通学支援・学生寮整備・給食導入等々、多種多様の要望が寄せられたが、県の運営任せの現状の中では、鹿角の未来を託す子供たちにとっての満足できる教育環境にはほど遠い。市としての本気の支援体制なくしては、近い将来、統合高校でさえ存続の危機を迎えると思うが、現状の市としての取り組みと県との折衝状況・問題点等を伺う。		
(2) 児童生徒送迎時における安全な乗降スペースの確保について			① 小中高統合による通学距離の延伸化、鳥獣や不審者の出没に対する安全確保等々、様々な背景により自家用車による通学送迎が急速に増えてきている中、安全な乗降スペースが確保できないために現場では大きな混乱が生じている。改善の要望の声も大変多く寄せられている。これらの解消のためには、市道や市道周りの整備、駐車場の拡張整備を即急に進める必要があると思うが、考えを伺う。		
(3) 「校内教育支援センター」設置について			① 文科省によると、2022年度の不登校小中学生は約29万9,000人で過去最多となった。様々な要因で不登校となった子供たちの「居場所づくり」と学習指導をするために、空き教室を利用した「校内教育支援センター」設置が急速に進められ、国の予算措置も前倒しして行われる。鹿角市における現状と計画について伺う。併せて不登校対策には、学習端末の有効利用やスクールカウンセラーの増員も不可欠だと考えるが、現状と計画について伺う。		
(4) 学習用端末利用について			① GIGAスクール構想の進展により、市内全校の生徒に学習端末が行き渡り、学習環境が大きく変化した。一方、全国的に見て都道府県別における利用頻度の格差が生じるなどの問題も指摘されている。現場の教職員の負担も増してきていることや苦勞も承知しているが、市内での学校間の利用頻度や有効利用面での格差の現状と解消対策について伺う。また、学習端末利用や家庭でのスマホ利用時間の増加による子供たちの視力低下も全国的な問題となっており、対策と指導も必要と考えるが、併せて伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

No.2					
順位	1	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 保育環境について				① 全国各地で相次いだ不適切な保育の報告を受け、子ども家庭庁が全国調査（昨年 4 月～12 月）を行った結果、保育施設全体での「不適切な保育」の発生件数 1,316 件、このうち「虐待」は 122 件と、とても心が痛む数字が報告された。自分自身を守ること、大人にうまく伝えることができない子供たちに対し、絶対にあってはいけないことで、最善の防止策を徹底して行う必要がある。市内での発生はないと信じているが、現状と防止対策について伺う。	
(1) 「不適切な保育」防止について					
(2) 「病児保育」について				① 子供が罹患すると親が子供の世話をするのは当たり前のことだが、共働きや母子・父子家庭においては、仕事を犠牲にするリスクを伴う。「病児保育」に対応した施設を設置できれば、子育て環境の充実度が飛躍的に向上すると考える。「病後児対応型」は当市でも設置されていることを承知しているが、「病児対応型」「体調不良児対応型」設置への現状と今後の計画について伺う。併せて规则的にこれらの施設利用対象を小学生まで広げることが可能だが、その可能性についても伺う。	
3 2024 年問題への対応について				① 働き方改革関連法により、大企業では 2019 年、中小企業では 2020 年 4 月から時間外労働に対する上限規制が強化された。5 年間見送られてきた物流・運送・建設・医療業界などへの上限規制が 2024 年 4 月から適用される。少子高齢化・人口減少が進む本市にとってさらなる労働力不足が進み、市内企業にとっても会社の死活問題ともなる大きな負担を抱えることとなる。行政としての、人口減・労働人口減に対する本腰を入れた総合的な対応策と成果が求められているが、考えを伺う。	
(1) 2024 年問題への対応について					

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	浅石 昌敏	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	鹿角市の敬老行事について				
	(1) 敬老会の再開について		① アンケートの結果、廃止となった敬老会を再開する予定があるか伺う。		
	(2) 記念品の贈呈について		① 75 歳以上の高齢者に記念品の贈呈ができないか伺う。		
2	鹿角市の農業について				
	(1) スマート農業について		① スマート農業の 5 年、10 年先のビジョンと農業者の高齢化に対応するため、スピード感を持って取り組みなければならないが、市長の考えを伺う。		
	(2) 水田活用の直接支払い交付金と畑地促進事業について		① 国の水田活用直接支払い交付金の交付対象水田については、昨年度から「5 年水張ルールの具体化」が示され、水張りを実施したものの課題が多くあった。また、水田を畑地化して、本作化を支援する「畑地化促進事業」については、方向性が二転三転しているため、国の施策は農家に打撃を与えていると感じる。こうした現状のため、事業の見直しについて国に要望できないか伺う。		
3	鳥獣被害について				
	(1) 熊対策について		① 令和 5 年は熊の出没が異常に多く、けが人も多く出て農作物の被害も多く発生した。来年度に向けた抜本的対策について伺う。		
	(2) 忌避剤の支援について		① 来年度から、熊による農作物の被害防止と集落内への出没や人身事故を防ぐため、忌避剤の購入支援ができないか伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	浅石 昌敏	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4 危機管理と災害対策について					
(1) 花輪堰根川原地区について			① 花輪堰根川原地区は毎年のように水位が上がり氾濫していることから何回か質問したが、本年度県に確認したところ、工事が計画されているとのことであった。しかし、この工事が実施されることにより、新たに下流の居住地等への影響が懸念されるが、何かしらの対応策を考えているのか伺う。		
(2) 災害重点農業用ため池について			① 最近の異常気象で豪雨災害が多く発生していることから、防災重点農業用ため池（ただし災害発生前には、排水処理可能なポンプを備えたため池）を増やすことが必要と考えるが、市の考えを伺う。		

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	鳥獣対策について		① 今年度の熊以外の有害鳥獣の捕獲数と箱わな（檻）、くくりわな、監視カメラの設置件数を伺う。また、熊の出没件数が来年も増えることが予想されるが、箱わな等の数を増やすなどの対策を伺う。 ② 捕獲のためには狩猟免許等が必要と思うが、免許の種類とそれぞれの取得費用について伺う。また、取得及び取得後の経費や、銃を管理していく上での条件等について伺う。 ③ 本市では免許取得後、猟友会に加入する義務があるのか伺う。また、狩猟免許がなくてもできる熊対策はあるのか伺う。		
2	鹿角市の農業について		① R T K基地局が設置されたが、利用状況と今後の課題をどのように考えているのか伺う。 ② あきたこまちRの収穫後の検査におけるカドミウムの含有量の結果について伺う。また、作付けした場合のメリット・デメリットについて伺う。 ③ 県では 2025 年度から全面的にあきたこまちRに切り替える方針であるが、鹿角市の作付農家に対する対応について伺う。		
3	大湯地区の活性化について		① 社会福祉法人による運営が困難になり、来年度末で閉園されることとなったが、市からの援助等の見直しを図り、存続できるようにお願いはできないか伺う。また、小規模保育などできることはないか伺う。		
	(1) 大湯保育園の存続について				
	(2) 大湯地区への買い物施設の誘致について		① 買い物をする施設が少なく、日用品の買い物にも不便を感じている住民が多くいるが、スーパーなどの誘致の考えはないか伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4	甲岳台展望台への林道整備事業について		① 本年度の着工・完成を断念したが、そこまで整備をする必要があるのか。市民から聞いたところ、林道がどこにあるのか知らない市民が多く、必要性を感じないと聞く。4,500 万円を使うのであれば、普段住民が使用する市道整備をしてほしいとの声を聞くが、今後の整備計画を見直す考えはあるのか伺う。		
5	J R 花輪線の利用促進について (統合校通学生への支援について)		① 来年 4 月から高校も統合され、多くの高校生が花輪まで通学すると思うが、J R を利用する高校生に支援する考えがないか伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	鹿角市における公共交通とライドシェアに関して		① 現在、国会ではライドシェア導入に向けて超党派勉強会が発足し、早期導入に向けた法整備が進むことが予想される。鹿角市としては、公共交通体系におけるライドシェアの位置づけをどのように捉え、そのために、どのような法整備体系となることを期待するか伺う。		
2	地域づくりミーティングについて		① 市長が参加した地域づくりミーティングについて、自分も花輪地区で開催された「鹿角の食の未来予想図」に参加させていただいた。非常に活発な議論があり有意義なものであると感じた一方で、「様々な事業でこのように集まって、課題を共有したり、将来こうしたらいいのではないか」ということは話すものの、そこから先に進まないの、毎回同じことの繰り返しになっている印象がある」という声を複数の方からいただいた。 議員として活動する中で、地域を元気にするためには、頭で考えるだけでなく、具体的に実践し、成果を検証して次に生かすことを繰り返しながら進化していくことの大切さを感じている。今後、幾らか予算をつけて、具体的に一つ取り組みを実施することで、事業が 1 サイクル完結するような取り組みにできないか市の考えを伺う。		
3	除排雪経費に関して		① 除雪排雪に関しては、除雪した雪を一時的に空き地や農地に寄せてためているが、利用予定のない土地に関しては、所有者に確認の上、排雪のために雪をトラック輸送せず、そのまま自然に溶かすことで、経費を削減できないか。ある土地を貸した所有者の方は、春以降も使用しないので雪は置いたままで良いと話したものの、業者は移動させてしまったとのことである。 業者にはインセンティブは働かないので、必要に応じて市で土地を借り上げることで、借上料は増えるが排雪量を削減することにより経費削減効果が期待できないか。 一方で、請負業者としては雪の量によって収入や必要人材確保等の見通しがつきにくいところや、豪雪、災害等突発的事態への対応力の維持も必要と思うため、トータルでの経費削減に努めつつも、基本待機保証など、メリハリをつけた持続可能な制度設計を模索すべきと考えるが、市当局の考えを伺う。		

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

No.2					
順位	4	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
4 3 歳以上の保育園児等への主食提供に関して				① 令和4年4月より主食提供を開始した、栃木県那須町（人口2万4,000人の内陸の町）を視察し、保育園にて一連の流れを視察した上で試食するとともに、担当課職員、保育園職員、調理担当者からヒアリングをした。令和3年6月に現場調理経験のある職員より主食提供についての提案があり、9か月後の翌年度から開始とのことであった。3月の鹿角市の答弁のような、保育士の負担増加やフードロスに関しての言及はほとんどなく、事業化には工夫とやる気と断言された。 現場においては、主食提供開始が決まった際は、やり方を変えることに対して好意的ではなかったが、結果的には変えたことで、「園児の食べる量が以前よりも増えた」「保護者の満足度も高く、保育士は園児の主食持参忘れや、その他各家庭の主食容器の取扱いに係る様々なリスクから解放された」とのことで、トータルで見てデメリットがないとのことであった。 経費としては初期費用として食器等の準備で約37万円、年間の調理委託コストで30万円ほど増とのことである。人口規模が近いので、鹿角市においても金額的には同程度と予測できる。 したがって、実質的な議論は食材費負担のあり方一本に絞られると考えるがいかがか。また、アンケートでは1人当たり3,000円の負担が参考価格として提示されていたが、実際には1,000円ほどであると考えがいかがか。	
5 保育現場の取り組みについて				① 那須町では、様々な保育業務の見直しも行ったとのことであった。 その中で、年間スケジュールの見直しを実施し、準備作業を含めて職員の負担が大きい外出イベント等を削減して、日常の保育をより充実させるとともに、保護者が園内で職員の手伝いをするを通して、理解を深めてもらう取り組み等も実施しているとのことだった。 鹿角市内の公立保育園における事業改善について、このような観点での取組状況を伺う。	

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

No.3

順位	4	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
6	小中学校給食でのフードロス削減と業務プロセスのD Xについて			① 小中学校で必要な給食提供数は、各学校から給食センターに対し、前月に1か月分をまとめて送付されていると伺っている。先日、ある家庭からインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症で学級閉鎖、学年閉鎖等を実施して、再開した翌日などは欠席生徒が多く、多くの給食が余ってしまいもったいないと思ったと子供が話していたという声をいただいた。 当日の欠席人数は、始業時間にならないと分からず、その時には調理作業が始まっているため、対応が難しいと思料するが、例えば牛乳の数に関しては最新の欠席数を反映して配送数を調整すれば、廃棄を減らせるのではないか。また、学級閉鎖からの再開時等に関しては、前日に確認を取り、確実な欠席数を調理数に反映することで、フードロスを削減できないか。 以上のような学校と給食センターとのやり取りに関し、D Xを活用することで簡単に反映できる仕組みができないか。また、廃棄量に関しての記録は手書きの資料と伺ったが、D Xを活用することで分析と改善も容易になると考えるが、当局の考えを伺う。	
7	かづの観光物産公社について			① かづの観光物産公社について、株主総会での代表取締役の解任を巡って、役員会で解任手続きに関して法的な確認が必要とのことで、これに関して登記の更新も進んでいないと伺っているが、具体的にはどの法律に違反している可能性があるという議論なのか、2か月以上経ち進んでいないのはなぜか。当局の現状の認識と今後の対応方針について伺う。 ② 舩屋副市長は、かづの観光物産公社の役員会を経て代表取締役となっているが、会社法上、代表取締役は複数名置くことができる。社長は社内の役職の一つであり、例えば取締役社長、代表取締役会長としている会社もあると理解している。 したがって、副市長の代表取締役としての登記は、社長解任を巡る議論とは分けて考えるべきで、決定後速やかに実施すべきであると考えているが、当局の見解を伺う。	
8	脱炭素先行地域選定への取り組み状況について			① 前回の一般質問での答弁では、8月に鹿角市が応募した第4回脱炭素先行地域選定の結果の公表は11月上旬以降とのことであったが、結果と考察、今後の当局の取り組みについて伺う。	

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	4	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
9 市当局の一般質問への答弁内容について				① 一般質問での当局の答弁は、自身を含めて質問者側に調査不足・理解不足と思われるものがある際、オブラードに包んだような言い回しになり、逆に質問者にも傍聴する市民にも当局の答弁の意図が伝わりにくいことがあると感じている。 より率直で直接的な答弁をすることによって、論点や認識をはっきりさせるとともに緊張感が生まれ、それが結果的に質の高い議論つなぐと考えるが、市当局の考えを伺う。	

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1		公約「市民との対話」について		① 市長は公職選挙法違反の疑いで告発されている件について、いまだ公の場での説明がない。「どうい うことなのか、鹿角市はこの先どうなってしまうのか」と市民から不安の声が多数寄せられている。市 のトップとして「市民との対話」を公約に掲げていることから、市民に対して自らの見解を示すべき と思うが、考えを伺う。	
		(2) 職員との関係について		① 株式会社かづの観光物産公社についての全員協議会では、慎重な検討を要する案件を、職員などの意 見を聞かず、自身で判断したという説明があった。これは独裁的で民主主義に反するのではないか。こ れでは、職員との信頼関係にも悪影響を与えかねないと捉えている。市民とは対話重視でも職員の意見 は重要ではないのか。 こういった姿勢から、その他の事業執行においても、トップダウンに傾倒した市政運営になっている のではないかと懸念している。過去の全員協議会においても、風通しがよい職場とするように議会から 意見が出されているが、市長は職員との意思疎通を良好に行っているのか。また、職員から意思疎通が しやすい首長と思われていると考えているか伺う。	
2		本市が抱える重要課題について			
		(1) 熊対策について		① 被害を防ぐためにも、駆除して頭数を減らしていく必要があると考えるが、今後どう対応していくの か。これは獣害から市民を守る危機管理の問題であり、市独自の対策を行うべきと考えるが今後の取り 組み等について伺う。 ② 県では、捕獲した熊を解体し熊肉を流通させるための加工施設について、市町村と協議しながら設置 を検討する考えのようだが、本市ではどのように考えているか。また、猟友会からの意見なども取り入 れるべきと考えるが把握しているか伺う。	

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(2) 少子化対策について			③ 花輪中学校で開催した市民と語る会において、参加した生徒からは、中学校周辺に熊が頻繁に出没し、非常に危険を感じているとの意見があった。また、その対策として、低い周波数の音で熊を追い払う装置「くまドン」が北海道で導入され、効果が出ていると事例が紹介された。出没頻度が高かった花輪中学校の通学路や桜山公園に導入を検討できないか。また、今後の対策として、県の生息調査等だけではなく市独自の分析や取り組みが必要ではないかと考えるが、「くまドン」の研究開発に取り組んでいる岡山理科大学の辻維周教授との連携協定は考えられないか伺う。 ④ これも生徒から出た意見だが、動物との共存を考えた場合、人口減と離農による耕作放棄地を自然に返していくという考えの下、熊などの動物を人里から遠ざけるため、山中に栗やドングリなど餌になる樹木を植えて、棲み分けを図るという方策は考えられるのか伺う。 ① 鹿角市の深刻な問題の一つに少子化が挙げられる。 現在は廃止となった出産への祝い金等も有効と思うが、子育てしやすい環境整備のため、男性の育児休暇取得を普及促進させることも重要であると考えます。勤めている会社で、育児休業の制度は整っているが、その期間の収入が減少してしまうため、取得をためらってしまうという例もある。 このことから、国の給付金に加え、市独自の育児給付金は考えられないか。育児休業取得に伴う減収の補填を目的に、育児休業支援金として、第一子 10 万円、第二子 20 万円、第三子以降 30 万円などという具合に支給すれば手厚い支援につながると思うのだが、考えを伺う。 ② 横手市では、生後 1 歳までの乳児がいる家庭に対し、家事や育児を補助する「産後ヘルパー」を無料で派遣する事業が好評だと新聞で紹介されていた。これは「横手市産後ファミリー応援事業」というもので、高齢者訪問介護サービスのヘルパー派遣をしている事業所が市からの委託を受けて実施しており、利用希望者が事前登録しておけば、事業所と日程調整し、年間 48 回まで無料で家事援助を受けられ、ファミリー・サポート・センターとは別の支援内容となっている。これと同じような仕組みを鹿角市でも導入できないものか伺う。		

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(3) 農業問題について			③ 大湯保育園の閉園問題もそうだが、将来を担う子供たちのため、少子化対策や子育て支援に手厚く予算をかける必要があると思う。本来地方は、のびのびとした環境に魅力を感じる世帯から子育ての場として選ばれてきたが、今は都会の方が子育て政策に注力しており、地方の少子化に拍車がかかる一方である。 人口は市の体力を表していると考え。鹿角市はさらなる少子化対策重視の政策実現が急務と思うが、考えを伺う。 ① 担い手不足、耕作放棄地、多発する自然災害など、農業についての問題は山積しているが、行政の指導はＩＣＴやＤＸを使つての省力化や認定農業者の掘り起こし、新規就農者支援といった専業従事者確保に重点を置いているが、家庭菜園や小規模農家を巻き込んで就農人口を増やす施策やスタートアップ支援なども併せて考える必要があるのではないかと。農産物は買った方が安いという理由で離農が進んできたが、地域内で取れた米や野菜などのおすそわけ風土が土台にあり、それを支えていた世代が高齢になったことで農業が身近なものではなくなっている。 現在、全国各地で小さな農業の増やし方として、「マイクロファーマーズスクール」や「兼業農学校」など農業指導の取り組みが増えてきている。本市でもそういった取り組みで、身近な家庭菜園から始める農業人口を増やすことも考えなければならないと思うのだが考えを伺う。		
3 高校の存続について			① 少子化の影響で鹿角地域の3つの高校が統合して1校となる。生徒数を安定的に確保しなければ今後の存続も危ぶまれる。羽後町では高校存続のために、町と学校が手を組んだ学校給食の提供や慶應義塾大学との連携など、生徒にとって魅力のある学校にするという強い意志の下、「高校魅力化事業」に取り組み、新入生は昨年度の2倍に増えた。 本市としても高校は県の教育施設という考えではなく、市の経済圏の維持という観点から、鹿角地域唯一となる鹿角高校が、多くの生徒から選んでもらえるような高校にするために、小坂町とともに高校とタッグを組んで、全面的に魅力向上のためのバックアップをしていく必要があると考えるが、市長の考えを伺う。		

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

No.4

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
4 本市の情報発信の強化について				② 魅力ある学校として、市外出身生徒の受入れ態勢を整える必要がある。最近では花輪高校野球部の躍進に伴い、市外の入学希望者から学生寮や下宿の相談件数も増えているようで、整備を望む声も多く聞いている。 学生寮などを設置するための予算措置を県へ要望できないか。また、空き家や廃校をリノベーションして学生寮等に活用するための開設支援などは考えられないか、市の考えを伺う。	
				① 市の制度や取り組みなどの情報を探す場合、本市のホームページでは誰もが必要な情報にスムーズにアクセスすることができるとは言えず、また、電話での問い合わせでは対応した職員の知識や経験などによる返答の差にストレスを感じると相談される事が非常に多い。求めている情報に素早く簡単にアクセスできる仕組みが求められている。 情報発信が上手な自治体ではSNS担当を配置しており、本市でも生涯学習課のSNSは内容も素晴らしく更新頻度も高い。このような発信頻度の高さに加え、問い合わせ等に対し高い対応スキルを兼ね備えた、行政全体の情報を提供する部署を設けることは考えられないか伺う。	
				5 域学連携事業・かづのキャンパス構想について	
				① かづのキャンパス構想として、大学生との域学連携事業を続けてきているが、これまでの単年ごとの成果と地元生徒の参加人数を伺う。	
				② この事業の成果として何が残りの、どういう施策に生かされているのか。域学連携事業は何を目的に、誰を育てているのか。本市の生徒たちに高度な学びを提供することも目的の1つとするのであれば、募集人数が少なすぎるなど改善の余地が多いと思うが、今一度ビジョンを伺う。	

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.5

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
6				③ 域学連携事業の課題とテーマが毎回「商店街と鹿角の活性化」。出る答えも「情報発信の強化」。毎年数日間のフィールドワークで、同じことを繰り返している印象だ。本市の課題は商店街の活性化だけではなく、それぞれの課題に合った大学との連携も考えられる。 例えば東京農業大学の食料環境経済学科では「山村再生プロジェクト」という独自の教育プログラムにより、学生が農山村で活動し、過疎地活性化に貢献する活動を行っている。学生自らが年間計画を定め、毎月地域を訪問している。葛飾区との都市農村交流事業と連携も図れると思うのだが、他分野の課題解決のために連携協定を締結する考えはないか伺う。また、あくまで商店街の活性化にこだわるのであれば、その理由を伺う。	
				① 若者の意見を市政に反映させることの重要性と必要性を前回もただしたが再度伺う。若者の流出が止まらない一因として、若者の意見に耳を傾ける大人がいないからではないか。これは、政治や社会の仕組みを学び、自分事として考える、主権者教育に触れる機会が少ないことに起因していると考えられる。自分の意思や意見が社会に反映され、郷土への誇り持ち魅力を感じてもらうためにも、少年議会を実施すべきと考える。全国的にも少年議会を実施し、決定された事業を実施するなど、主権者教育によりシビックプライドの醸成を図っている自治体が増えてきている。 鹿角市議会では、花輪中学校の生徒たちと直近で2回意見交換の機会を設け、市に対する提言とアイデアをいただいている。どれも磨けば光る素晴らしい提言とアイデアだが、形にして反映させなければ意味がない。そのためにも、少年議会等が開催できるように体制を整える必要があると思うが、取り組む考えはあるか。	

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.6

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
7 市政の硬直化について			① 前回の定例会において、行政視察先の取り組みはバックグラウンドが異なるため、本市ですぐに採用するのはいかななものかという趣旨の考えが示されたが、行政視察は、視察先と同じ事業を実施するためではなく、先進地が地域課題の解決策を生み出したノウハウ等を吸収し、鹿角市版にフィードバックして事業化することが目的である。これまでも一般質問等で、様々な課題解決のために新たな事業に取り組むべき必要性をただしてきたが、ほとんどが「従来通りのやり方で」や「検討します」といった具合に新たな事業化に至っていない。この状態を硬直化というのではないか。市長は、よりよい鹿角にするため、独自の新しい取り組みを公約に掲げ、市民からの負託を受けているが、その新事業の進捗状況も硬直化しているのではないか。両輪が一つとなって課題の解決に向けて取り組むべきと思うのだが、市長の考えを伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	戸田 芳孝	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 市長の選挙公約について (1) 大学の創設について			① 前回の一般質問では、サテライトキャンパスの設置が検討されている旨が述べられている。しかし、後援会事務所で行われた政策発表（令和 3 年 4 月 21 日）では、「鹿角大学の構想」が示され、また、市長のホームページ（関 Q & A）にも新たな大学の創設が示唆されている。大学の創設とサテライトキャンパスの設置では方針や目的は異なるが、方向転換された経緯を伺う。また、サテライトキャンパスの規模や設置時期、期待される効果について伺う。		
(2) 森の学校や鹿角伝説館の設立について			① 「統合した学校跡に、森の学校や鹿角伝説館をつくり、市民の学びや観光にも生かします」と掲げられた公約について、具体的な計画の進捗状況を伺う。		
2 かづの観光物産公社について (1) 運営に関する指導と対応について			① 関市長が市長に就任して以来、「かづの観光物産公社」にどのように関わり、どのような指導を行ってきたのか伺う。また、昨年 9 月に行われた外部調査の結果を踏まえ、どのような対応をされたのか伺う。		
			② 総会議事録の中に、「あの調査は半分しかしていない。これから、黒澤税理士さんの調査もする（税理士による調査を実施するとの表現の誤りと推測）」との記述がある。この発言から再調査が検討されていることがうかがえるが、具体的な実施時期や調査項目について伺う。		
(2) 臨時株主総会の議決事項について			① 9 月 20 日に開催された臨時株主総会で提出された議案と議決内容について伺う。		
			② 登記すべき事項が決議された場合、会社法（第 915 条第 1 項）の規定に基づき、所定期間内での手続きが必要とされるが、変更手続きが適正に行われたのか伺う。		
(3) 代表取締役の解任日について			① 解任日（事由発生日）について伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	6	質問者	戸田 芳孝	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(4) 代表取締役の解任理由について			① 9 月 20 日に開催された臨時株主総会で、何の予告もなく即時解任を求めた理由について伺う。 ② 任期途中での解任は「正当な理由」がない限り、法的リスクを伴う可能性がある。法律上の規定（会社法第 339 条第 2 項）に基づき、解任権を行使されたのか伺う。 ③ 「仕入れの硬直化」が解任の理由として挙げられているが、この問題の根本的な要因について伺う。 ④ 「かづの物産振興プラザ」の会見では、解任の理由とされた「仕入れの硬直化」について、税理士の調査報告書には事実誤認があるとされ、その内容を疑問視している。また、関市長の発言に対しても、報告書を鵜呑みにしているのではないかと指摘され反論している。双方の主張には相違が見られ、問題を明確にするためには、第三者による調査委員会の設置が望ましいと考えるが、この点について伺う。		
(5) 解任動議の提案と決議について			① 代表取締役の解任は極めて重要な決議事項であり、手続きは会社法の規定（第 309 条第 1 項、第 2 項）に基づいて進める必要がある。提出された解任動議は、法的基準に沿って提案し、決議されたのか伺う。		
(6) 「かづの観光物産公社」の経営状況等について			① 「かづの観光物産公社」の経営状況等について、下記事項を伺う。 (ア) 「かづの物産振興プラザからの仕入れが通常より 1 割高い」と指摘しているが、具体的な根拠を伺う。 (イ) 「あんとらあが 1 億円近い赤字があったのはご存じでしたか、(中略) 再建は困難でしたが、相当に厳しく取り組み、(中略) ようやく 1,000 万円の黒字にしました」と SNS で市長自ら投稿（現職市議が SNS 上で投稿した情報へのコメントに対する返信）しているが、公職としての公の場での発言である。赤字額 1 億円の根拠について伺う。 (ウ) 各地区で「第三セクター（あんとらあ）は市民のもの」をテーマとした報告会（大きな市長室）が行われている。公職としての市民への説明の場と考えるが、この報告会を開催した趣旨について伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

No.1

順位	7	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 低所得世帯支援と推奨事業メニュー実施の予定と内容について				① 年内に支給実施の準備が可能か伺う。	
				② 生活者支援推奨事業メニューはスピード感のある支援内容とすべきと考えるが、市の考えについて伺う。	
				③ 今後の対応について伺う。	
				④ コムス貸出実証（モニター調査）について伺う。	
2 市内宿泊事業者による「あきたびキャンペーン」の不正請求について				① 不正請求が当市に及ぼす影響の有無と対応状況について伺う。	
3 御蔵の下より桜山公園へ通じる法定外公共物の住民占拠について				① 現在までの折衝の対応状況について伺う。	
4 鹿角市 2030 ゼロ・カーボンシティ達成への取組状況について				② 住民側の無許可使用（占拠）について、その理由（主張）と正当性を伺う。	
				③ 今後の対応について伺う。	
				④ コムス貸出実証（モニター調査）について伺う。	
				⑤ 今後の対応について伺う。	

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	8	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 子育てを支える環境づくりについて					
(1) 大湯保育園について			① 急激な少子化もあり、令和 6 年度をもって閉園となる予定である。経営している社会福祉法人から話を伺ったところ、5 年ほど前から少子化などを懸念して市へ相談や提案をしていたようだが、市としてどのような対応をしてきたのか伺う。 ② 大湯地区唯一の保育所がなくなることで、保護者や若者世代、地域にも多大な影響が生じるが、市としてはどのように考えているのか伺う。 ③ 現在、大湯保育園で行われている特色のある保育は、県内外問わず全国から移住者を呼べるほどの可能性を秘めている。このような貴重な保育方針を残すべきと思うが、本市の考えを伺う。		
(2) 保育園留学について			① 特色のある保育は全国で根強い人気を誇り、そういった保育を取り入れた保育所も全国で増えてきている。その特色を生かし、保育園留学を行い全国各地から多くの親子が訪れる園もある。本市でもこの保育園留学を取り入れる考えはあるか伺う。また、保育留学をする場合には、その親子が短期間滞在できる施設が必要となる。市が鹿角管内の空き家を改修し、使用してもらうことは可能か併せて伺う。		
(3) 保育所運営について			① 大湯保育園以外の保育施設について、今後 5 年間で少子化などの影響により閉園になる可能性があるところはあるか。また、そのような相談を現在受けているか併せて伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	8	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(4) 小規模保育園について			② 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市内のみならず全国的に出生数が激減した。学校や保育所の統合・閉園などが起きているが、鹿角市は面積が広大で降雪量も多く、通園・通学などにかんがりの負担を強いられる家庭もある。特に保育所などへの通園は、ほぼ車での送迎となっており距離での負担の増減が激しい。 これからさらに少子化が進むことなどを考えれば、どの保育所でも経営が悪化することは明らかである。しかし、それによって中心部へ一極集中してしまうようになれば、鹿角市全体の子育てを支える環境は万全なものではなくなってしまうと感じる。早期の段階から保育所の再編計画を考え、未来に希望が持てる子育て環境をつくらなければならないと思うが、本市の考えを伺う。 ① 全国でも少子化の影響で閉園せざるを得ない保育所が増えてきている。運営上、通園児の人数が 20 人以上いなければ認可されないことも影響しているようだ。それに対し小規模保育園は、6～19 人以下の人数でも認可される。平成 27 年 4 月に事業化となったこの小規模保育園は、「孤育て」や「待機児童」を減らすために 0～2 歳の乳幼児を対象として始まった。 また、国家戦略特別区を対象に 5 歳児までの受け入れが可能であった。そして、令和 5 年 4 月には子供の保育の選択肢を広げる観点から、法令の緩和により国家戦略特別区域以外の全国の地域においても 3 歳児以上の幼児の受け入れが可能となっている。 急激な少子化により、今後の市内保育所の経営に不安を感じる。早期の段階から経営者などが柔軟に対応できるよう小規模保育園設置条例を策定すべきと思うが、本市の考えを伺う。 ② 本市でもいずれは小規模保育園が増えると感じている。そして現在ある建物を再利用した場合、普通規模の保育園を想定した施設のため面積が広すぎることや、小規模人数に対しても給食の提供は普通規模と負担があまり変わらないことなど様々な影響があり、運営に不安が残ると感じる。その様な不安をなくし、安心な運営ができるよう、市から補助や支援をできないものか。想定した場合の考えを伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	黒澤 一夫	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	ツキノワグマの出没による人身被害及び農作物等の被害防止の取り組みについて		① 全県にわたって、熊の出没、被害の状況が報じられているが、当市におけるそれらの実態はどうなっているものか伺う。 ② 保育施設、小学校、中学校の通園通学については、特段の安全確保対策を講じなければならないものとする。保護者等の要望にどのように応じているものか伺う。 ③ 猟友会との協力体制は十分なものと思われるが、状況を伺う。 ④ 熊の捕獲おりを新たに 10 基準備して、人身被害が発生しないよう対処いただきたいが、考えを伺う。		
2	郷土芸能、民俗芸能の保存伝承の取り組みについて		① 鹿角に伝わる民謡民舞、そして神楽につながる民俗芸能を末永く守り伝えなければならないと考える。花輪ばやしをはじめ、どのような体制で保存伝承の取り組みを展開しているものか伺う。 ② 授業の正課として位置づけ、取り組むことはいかがか。		
3	国際交流事業の取り組みについて		① 市民への多面的な体験交流の機会を提供することも、市政の大切な事柄であると思われる。海外諸国とは様々な面での交流があると思うが、ハンガリーのショプロン市との交流はどのような状況にあるか伺う。 ② 小学生、中学生を毎年海外研修に派遣し、心豊かな情操教育に取り組んでほしいと考えるがいかがか。		
4	花輪舟場稲村橋と尾去沢中学校間の道路の通行、横断の安全確保対策について		① 稲村橋は平成 14 年に架け替えされ、歩道も整備されたことから地域住民や通行人からは喜ばれているが、橋から中学校手前の交差点までの区間には横断歩道が 1 か所しかないため大変不便である。このことから、当該区間において等間隔に 2 か所の横断歩道の新設を提言するが、考えを伺う。		

令和 5 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	黒澤 一夫	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
5	冬期間の除雪及び排雪について		② 冬期間には歩道の除雪が十分にされないため、積雪により視界が妨げられ、県道への進入時など車両の通行に支障を生じていることが多く見受けられる。また、下モ平地内から尾去沢中学校までの間も同様である。そこで、この歩道を融雪道路としてはどうか、市の考えを伺う。 ① 今年 12 月 1 日が初除雪となり、民間委託がスタートした。本年度の除排雪について、特にどのような点に注力して、市民の安全安心な移動手段を確保するものか伺う。		
6	「道の駅かづの」、「かづの観光物産公社」の経営状況について		① 大幅リニューアル後、観光客や施設の利用者も増えていることと思うが、状況を伺う。 ② 9 月 25 日の全員協議会で代表取締役解任についての説明があったが、内容が十分ではなかったため、次の点について伺う。 (ア) 緊急動議で代表取締役を解任したとのことだが、誰がこの会議を招集したものか伺う。 (イ) 緊急動議を提出したのは誰か。賛成何人、反対何人で可決されたのか伺う。 (ウ) 緊急動議が成立し、解任したとする会議記録の管理状況について伺う。		

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	10	質問者	児玉 悦朗	質問所要時間	30 分	No.1
質 問 事 項				質 問 要 旨		
1 かづの観光物産公社の運営について				① 市長が公社の代表取締役を解任したと伺ったが、現在、登記上の代表者は誰なのか伺う。新しい代表取締役が決定したら登記するのか、今後の登記時期の予定と、公社をどのように運営していくのか伺う。 ② 鹿角観光ふるさと館の指定管理について、代表権の変更登記も行われていない状態の組織と指定管理の協定を締結することは妥当ではないと考えるが、見解を伺う。 ③ 指定管理者の指定申請は誰の名前で何月何日に申請がなされたのか、また、申請に対してどのような審査を行ったのか伺う ④ 観光行政の要である公社が社長不在では観光行政が進まないと思うが、その責任を市長はどのように感じているのか伺う。 ⑤ 副市長が代表者では第三セクターの趣旨から外れていると思われ、少なくとも健全な状態ではないと思うが、見解を伺う。		
2 十和田湖の展望台「甲岳台」へのアクセス道の再整備について				① 十和田湖の展望台「甲岳台」へのアクセス道の再整備について報道があり、小坂町は「鹿角市の発表と見解に相違があるとし、町に事務の遅れはなかった」との考えを表明した。本市と小坂町の認識が食い違っているが、甲岳台へのアクセス道の再整備の手続きが遅れている原因について、再度本市の見解を伺う。		
3 水稻の重金属汚染対策について				① 重金属汚染対策として、県は「あきたこまちR」に全面的に転換するとの方針を示したが、選択の余地はないのか。また、水稻の他の品種についての重金属汚染対策はどのようなになるのか。さらに、「あきたこまちR」の販売をどのように行うのか伺う。		

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	11	質問者	館花 一仁	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 熊対策について					
(1) 射撃練習場の整備について			① 熊被害防止のためには、若手人材の育成と射撃技術の向上が不可欠であり、日頃の訓練が重要と考える。以前、市内には東山パークゴルフ場付近に射撃練習場があったと聞くが、猟友会員からも、同地への射撃練習場の再建を求める声が届いている。 射撃練習場の再建設や新設について、市長の見解を伺う。		
(2) 専門チーム職員の配置について			① 熊などの野生鳥獣による農作物や人的被害が増加する中、市民の安全と安心を確保し、効果的な対策を講じるため、環境省の鳥獣保護管理に係る人材登録事業を活用し、専門知識を持つメンバーで構成する「（仮称）有害鳥獣専門チーム」の配置も必要と考えるが、市の考えを伺う。		
(3) 人里との緩衝帯整備に係る支援について			① 人間の生活圏での出没を予防するためには、緩衝帯の整備が重要であるが、山林伐採や山際の刈払いなど、森と人里の境界整備等を地域住民等が自ら行う活動に対して資材提供や補助金などにより支援することはできないか。 加えて、森林環境譲与税を活用し、緩衝帯整備などの鳥獣被害対策に関連する事業を実施することはできないか、市の考えを伺う。		
(4) 市街地での熊対策に係る関係法令と鹿角市鳥獣被害防止計画の運用について			① 市街地での猟銃使用の判断基準について、鹿角市では関係法令に基づきどのように運用しているか。また、猟友会や警察、自治体間の連携強化についての取り組みを伺う。 さらに、昨今の熊出没について、鹿角市鳥獣被害防止計画で十分対応できていると考えているのか伺う。		

令和5年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	11	質問者	館花 一仁	質問所要時間	45 分	No.2
質 問 事 項				質 問 要 旨		
(5) バイアスロンの射撃練習場の整備について				① 先般、アルパスにおいて、（一社）日本バイアスロン連盟主催の「U15 次世代トップアスリート育成事業」が実施された。 北東北の中学生が参加し、射撃やローラースキーの練習を行っていたが、バイアスロンの練習環境の整備は、総合運動公園の既存施設の活用とスポーツを通じた交流人口の拡大、選手の育成強化に効果的であり、特に、オリンピック選手として活躍したいという夢を持った本市の子供たちに、新たな選択肢を提供することができる。 既存のローラースキーコースにレーザーライフルに対応した射撃練習場を整備すれば、練習環境として申し分ないと考える。 射撃練習場を整備することで、バイアスロンのほか、猟友会員の射撃練習場として併用することが可能と考えるが、射撃練習用施設を整備する考えはないか。		
(6) 熊の駆除と生態系保全について				① 識者は熊を継続的に駆除することの重要性を説いているが、駆除の必要性和生態系保全のバランスについて、どのような根拠に基づき、どのように進めるべきと考えているか。		
(7) 次世代の熊へ対応した新たな被害防止策について				① 市街地や人里において目撃される熊は、子連れのケースが特に増加しており、熊が人間の生活圏内に進出していることを示唆している。 このような状況下で、いわゆるアーバン・ベアが来年以降も市街地や人里を中心に活動することを防ぐため、どのような予防策を講じているのか。 食料源の管理や生息域からの追払いなど、熊の出没や被害を防ぐための具体的な取り組みについて伺う。		
(8) 熊肉加工施設の設置について				① 秋田県知事は、秋田県猟友会からの要望を受け、県北地区に熊の解体や肉の流通・冷凍を担う施設の設置を検討していることを明らかにした。この計画に対し、どのような見解を持ち、県北市町村との協議や調整をどのように進めているのか伺う。 また、施設設置の実現可能性について、費用対効果や安定的な運営をしていくためには、どのようなことが必要と考えるか伺う。		